「自分らしく生きる」を支える

元陸自幹部・看護師 足寄に老人ホーム開設

鐘ケ江紗里さん（36）

【足寄】元陸上自衛隊幹部で、看護師として海外にも派遣された経験を持つ鐘ケ江（かねがえ）紗里さん（36）。今年7月、足寄町内で住宅型有料老人ホーム「アニカ足寄」をオープンさせ、末期がんや神経難病など、医療依存度が高い入居者らに寄り添う毎日を過ごす。自衛官時代の病院勤務や海外派遣、退官後のアフリカでの経験―などを踏まえ、たどり着いた足寄の地。『自分らしく生きる』を支える」とする使命を、全うする覚悟だ。（北雅貴）

今年7月に住宅型有料老人ホーム「アニカ足寄」をオープンした鐘ケ江さん。「自分らしく生きる、を支える」をミッションに掲げる

海外派遣、災害看護学 経験重ね「地方で挑戦」

残された時間を「自宅のように」

「アニカ足寄」は、町中心部の「在宅療養支援診療所 ホームケアクリニックあづま」（町南5ノ3）の2階にある。末期がんや難病を抱える患者らが、残された時間を自宅に近い環境で過ごすことができる介護施設で、最大28人が入居可能だ。

緩和ケアを受けながら、自由度の高い生活を送ってもらう。入居する部屋には「自分の家のように感じてほしい」との思いも込めた。好きな洋服や食器、座布団などの持ち込みも可能。訪問看護と訪問介護の事務所も併設され、夜間も看護師や介護士がいるため、ペットを含む面会も、24時間365日受け入れる。

オープンから2カ月が経過したが、町外の病院などに入院していた足寄町民らが〝里帰り〟して、入居する。穏やかな時間を過ごす入居者の姿に、鐘ケ江さんもほほ笑む。

ネパール派遣も「何もできない」

福岡県出身の鐘ケ江さんは、同県で有数の進学校を卒業後、経済的事情から、2007年に自衛隊中央病院高等看護学院（東京）に入隊した。3年後には一般患者も受け入れている同病院に配属。看護官として集中治療室（ICU）で勤務した。

ICUでは頻繁に訪れる患者の死。先輩に「人の死に慣れるのが怖い」と泣いて訴えたが、「『あなたが一生懸命に見ていたら、その人は最期の最期まで生きられる』と言われて、はっとした」と述懐する。

15年には、大地震のあったネパールに国際緊急救助隊の一員として派遣。「世界政治の中で、日本の立ち位置や、自衛隊がどのような支援をできるかを知らない若造だった。何もできなかった気持ちが大きかった」。無力さも感じた。

ネパールでの経験が契機になり、「国際支援や世界での医療を学ぼう」と、18年に幹部の2尉の地位を捨てて陸自を退官。東京医科歯科大学保健衛生学研究科で5年間、災害看護学を専攻した。

国際緊急援助隊の一員としてネパールに派遣された鐘ケ江さん。「何もできなかった」との思いが新たな進路の契機になった

シエラレオネは生と死が身近に

そして、18年から23年までの間、3回にわたり、研究や国連世界食糧計画（WFP）緊急支援チームのインターンシップで、西アフリカのシエラレオネ共和国に滞在。首都フリータウンから、車で5～6時間離れた地方の村に入り込み、現地の人と暮らした。

同国は小さな貧しい国で、平均寿命も短く、ICUと同様に生と死が身近で「考えさせられることが多かった」。赤ちゃんは住民全員で祝福し成長を見守る。一方、栄養失調や感染症などで亡くなる人もいた。驚いたのは葬式だった。

「結婚式と間違うぐらい華やかだった。お金のある人がご飯やお酒、ジュースなどを買い、お金のない人は歌や踊りを披露する。みんなが故人の思い出を話している。村人全員が笑顔で送る。人生に対する敬意と祝福があふれている」

23年に同大同研究科博士課程修了。国内、特に地方に関心が高まった。「世界に類を見ない保険制度が整っているのに、患者や家族が望むような、孤独を感じずに最期を迎える場が少ない」。率直に思った。

鐘ケ江さんは西アフリカのシエラレオネ共和国で、現地の人たちと交流しながら研究を重ねた

異例の速さで「アニカ」開設

足寄との縁は、陸自時代の同僚で、現在は帯広の民間病院に勤務する医師の情報が発端だった。足寄町内の医療法人社団三意会（池田千鶴理事長）が経営していた、介護療養型老人保健施設の「あづまの里」が廃止となったが、併設されている「在宅療養支援診療所 ホームケアクリニックあづま」は継続する―という内容だ。

「縁もゆかりもない地域だが、挑戦しよう」。今年3月にアニカホスピス株式会社を設立。十勝総合振興局や足寄町、とかち広域消防局などの協力を得て、「異例の速さ」となる7月中旬に、開設にこぎ着けた。

同社では、岩渕寛太郎さん（41）も、経理面などで支える。伊藤忠商事などで勤務していた岩渕さんは、シエラレオネ共和国で、ゼロからパイナップル畑や加工場を作って雇用を生み、地域コミュニティーを激変させた経験もある。

「営利企業という言葉は大嫌い。株式会社は金もうけが目的ではなく、事業目的を達成するための組織にすぎない。営利はただの継続の手段であるべきだ」。鐘ケ江さんに負けない強い信念を持つ。

オープンから2カ月が過ぎ、運営も軌道に乗り始めた。池田理事長は「高齢者のケアと緩和ケアのマインドを受け継いでもらえる。組織形態が違っても信頼している」と話す。鐘ケ江さんは、「微力だが、足寄や十勝の地域医療や福祉のお手伝いができればうれしい。（終末期患者らの）選択肢の一つになれば」。穏やかな笑顔を見せる。

電子版に関連記事

70歳からの住まいと暮らし
シニアライフセミナー in 十勝
高齢期の暮らしが心配…。
実際にお部屋を見てみたい！
最新の高齢者住宅のお話を聞いてみたい。
講演　あなたは成り行き任せor早めの住み替えか？
～介護事業30年の経験から伝えるこれからの暮らし～
内覧会　○ブラン JR 帯広駅前の内覧会を実施。
実際のお部屋やレストランや大浴場、
広々としたロビーなどをご覧いただけます。
参加無料 各回限定30名
日時 10月5日土
午前の部　9:40 受付開始
10:00～11:00 セミナー
11:00～12:00 内覧会・入居相談・資産売却相談
午後の部　13:40 受付開始
14:00～15:00 セミナー
15:00～16:00 内覧会・入居相談・資産売却相談
※午前の部、午後の部ともに個別相談会を実施いたします。
会場 ブランJR帯広駅前
帯広市西3条南12丁目6
※駐車場はございません。近くの有料駐車場をご利用ください。
講師 一般社団法人高齢者住宅協会 理事
（株式会社マザアス 特別顧問）
吉田 肇氏
申込方法
参加希望者は氏名、年齢、住所、電話番号、性別、職業、参加希望人数、参加希望の部（午前・午後）、個別相談の有無を明記の上、右記のいずれかでご応募ください。ご家族でのご参加も可能です。ご応募いただいた方の中から抽選の上、当選者には当選者ハガキにて、十勝毎日新聞社よりご連絡を差し上げます。
応募フォーム、ハガキ、ファックスのいずれかでお申し込みください。
■応募フォームは右記2次元コードからアクセスしてください。
■ハガキ：〒080-8688 帯広市東1条南8丁目2
十勝毎日新聞社「シニアライフセミナー係」
■FAX：0155-24-9190（十勝毎日新聞社「シニアライフセミナー係」）
※お申込みでいただいた個人情報は当事業以外には利用いたしません。
お問い合わせ先　0155-23-2323（事務局：十勝毎日新聞社 営業局）※午前9時～午後6時（土・日・祝日は除く）
■主催／ミサワホーム北海道　■後援／一般社団法人高齢者住宅協会　■企画・運営／十勝毎日新聞社

十勝の住民と考える
安全・安心の集い 2024
北海道警察音楽隊・カラーガード隊コンサート
入場無料
先着600名の方に粗品を差し上げます。
あいさつ　来賓ご挨拶　安全・安心宣言
■日　時／令和6年9月26日(木)
開場／午後5時30分　開演／午後6時00分
■ところ／幕別町百年記念ホール
中川郡幕別町千住180番地1
■主　催／帯広地区安全運転管理者事業主会・帯広地区防犯協会連合会
会場MAP
十勝川　至十勝川温泉　札内川　スポーツセンター　至帯広　札内橋　JR根室線　札内駅　38　白人小学校　至幕別
幕別町百年記念ホール
幕別町千住180-1　☎56-8600
〈お問い合わせ先〉帯広地区安全運転管理者事業主会　帯広市西19条北1丁目　☎0155-33-3400